

運動の現場から

わだつみのこえ記念館へようこそ

永野仁

本郷三丁目交差点から東大赤門前を少し過ぎて左側、曹洞宗喜福寺の境内に赤門アビタシオンというマンションがある。この一角に、昨年12月1日「わだつみのこえ記念館」が開館した。1、2階あわせて30坪というまことに小さなものであるが、とにかく第一歩を踏出したわけである。

もともと1950年4月、日本戦没学生記念会（愛称・わだつみ会）が発足したとき、会の事業の一つとして学生平和会館の建設をかねてきた。いくたびかの努力が挫折した後、1993年学徒出陣50周年記念事業として、今度こそ実現せずんば已まざる覚悟で「わだつみ記念館（仮称）」の建設に取り組みることになった。経済情勢の悪化もあって募金は破竹の勢いとはいかなかったが、2004年には、規模を小さくすれば実現可能という目的が立った。

わだつみ会は任意団体であり、何かを所有すればそれは代表者個人の所有物となるというのが、現在の法の体系である。そこで、記念館を所有し、管理し、運営す

る法人をあらたに設立することを決断した。2005年1月、「特定非営利活動法人わだつみ記念館基金」を設立し、8月に法人登記をすませた。これで物件売買が法人の名でおこなえることになり、また、かけがえのない遺稿・遺品を寄託、寄贈してくださる遺族の方々にも安心していただけることになった。

法人はその設立趣旨書に、わだつみ会が長年掲げてきた理念を継承し、十数年にわたる拠金を受けて設立されることを明記した。そして、記念館は日本ならびに韓国・朝鮮・台湾の戦没学生の遺稿・遺品を核とし、あわせて国内外のあらゆる戦争犠牲者の記録を収集し、展示する。また、平和の基礎の一つは諸国民、諸民族の交流と相互理解であるから、記念館は戦争とその犠牲者にかんする国際的な人の交流と資料、情報、文献の交換をつねに心がけ、平和思想と友愛の精神の高揚につとめる、とのべた。話はさかのぼるが、2001年とその翌年、私たちは大阪、京都、東京でかなりの

規模の戦没学生の遺書・遺品展を催した（大阪、京都は共催）。記念館との関係でいうと、これによって遺族との関係が親密になって遺品寄託の流れが徐々に出来ていった。また、どの会場でも、朝鮮人学徒兵の資料と市民や農民兵士の資料をあわせて展示した。原物の力は偉大である。ショーケースにもたれかかって遺稿の文章をじっと読む人が多い。時に涙をぬぐっている。用紙やノートの様態、えんぴつやペンの筆跡が状況を語り、筆者の息づかいと心の状態をいきいきと伝える。それは死者を身近に感じさせ

る。（ながの・ひとし NPO法人わだつみ記念館基金理事長）

わだつみのこえ記念館

〒113-0033

東京都文京区本郷5丁目229-13

赤門アビタシオン1階

電話03-3815-8571

e-mail wadatuminokoe@nifty.com

開館／月・水・金 午後1時半～4時